

# 令和7年度 群馬大学共同教育学部附属特別支援学校 研究実践報告

自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成（3年計画の2年次）  
～子どもが願いの実現に向かう中で、思いや考えを巡らせる授業実践～

## 1. 研究の概要

本研究は、多様な状況において、自分はどうか、どうすることが望ましいかということを選択し、社会に参画していくことができる児童生徒の育成を目指すものである。そのために、子どもが思いや考えをもって自ら行動する経験を重ねていくためのポイントを整理すること、また、よりよく社会とかかわる力が身に付いたか検証することを目的としている。

昨年度の取組を受け、単元を通して子どもが思いや考えを巡らせ（往還し）ながら、学習活動に取り組むための授業について検討していく必要があると捉えた。そのために、子ども自身が、ある程度先を見通し、“〇〇したい”“〇〇になりたい”と主体的に学習活動に取り組むことが大切であると考えた。そこで、3年計画の2年次である今年度は、以下の2点に取り組むこととした。

- ・子ども自身が“〇〇したい”“〇〇になりたい”という「願い」をもつための手立てを明らかにすること。
- ・子どもが「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫について整理すること。

実践を通して、本研究における「願い」は、「ある程度先を見通して“〇〇したい”“〇〇になりたい”と望むこと」とし、どの程度先を見通すかについては、1単位時間、小単元、単元全体、将来と関連してなどと、子どもの実態や教科等によって異なると捉えた（図1）。

子どもが学習に取り組む中で、「願い」を膨らませる、別の「願い」へと変化させる、「願い」の実現に向けて更に思いや考えを巡らせていくなどの姿が見られた。このようなことから、単元を通して子どもが思いや考えを巡らせていくサイクル（図2）を通して、資質能力の育成につながると考えた。

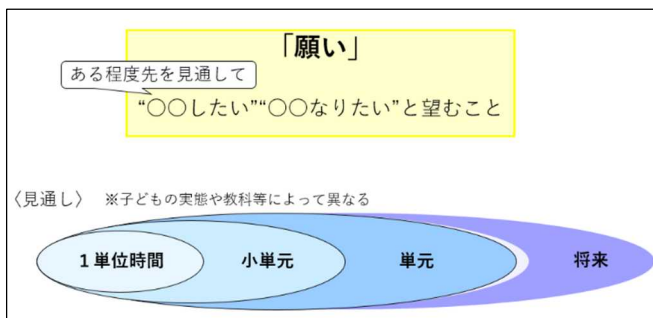


図1 「『願い』」の定義とその見通し

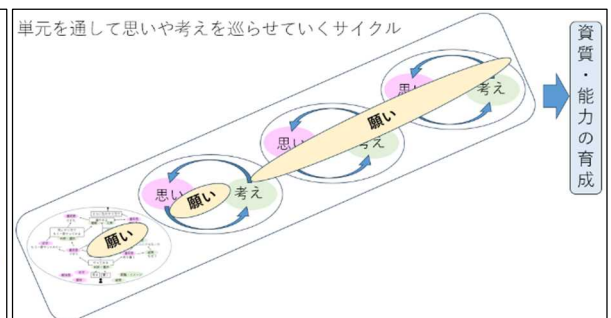


図2 「単元を通して思いや考えを巡らせていくサイクル」

## 2. 実践

※別ページ参照（小学部：生活単元学習、中学部：美術科、高等部：生活単元学習）

### 3. 本年度のまとめ

#### ○成果

今年度の実践を通して、「子どもが『願い』をもつための手立て」と「子どもが『願い』の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫」について以下のように整理した。

#### 〈子どもが「願い」をもつための手立て〉

- ・学習集団の実態に応じた教材や活動を設定すること
- ・活動の目的やゴールを子ども達に分かりやすく示すために、「単元（題材）のテーマ」や、「小テーマ」を設定し、授業の中で子ども達と共有すること

※「小テーマ」は「単元（題材）のテーマ」を小単元ごとに段階的に示したものの。

- ・他者と関わる場面を設定すること

#### 〈子どもが「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫〉

子どもが「願い」の実現に向かう活動の工夫	子どもが思いや考えを巡らせるための支援の工夫
<ul style="list-style-type: none"><li>・得意なことを生かせる／子どもが“できそう”と思える活動</li><li>・発展性のある／ストーリー性のある活動</li><li>・現在の力を知る／試す場面</li><li>・「願い」の実現のためにできるようになりたいことを、子ども自身が捉える場面</li><li>・自己決定する場面</li><li>・繰り返し試せる場面</li><li>・改善する場面</li><li>・友達の前で発表する場面</li><li>・これまでとこれからをつなぐ振り返りの工夫 (どこまでできたか、なぜできたか、次はどうするか)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境構成の工夫 見通しをもてる／やることが分かる “やってみよう”と思える 友達と一緒に取り組める／友達の様子が見える 一人でできる／繰り返し試せる “うまくいった”と実感できる</li><li>・複数の選択肢を用意しておく</li><li>・目標ボードやチェックリストなどの活用</li><li>・関わり方の工夫 一緒に取り組む 待つ／見守る 言語化してフィードバックする</li><li>・疑問や問題意識につながる発問</li></ul>

上記の〈子どもが「願い」をもつための手立て〉や〈子どもが「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫〉を授業づくりに取り入れたことで、子ども自身が「願い」をもち、その実現に向け、単元を通して思いや考えを巡らせながら学習活動に取り組む姿や、自分はどうしたのか、どうすることが望ましいのかということ、自ら選択し、行動するといった研究主題につながる姿が見られた。

また、子どもが「願い」をもつ際や、思いや考えを巡らせる際に、他者との関わりも関連していることが分かってきた。

#### ○課題

- ・他者との関わりを通して、子ども達が更に思いや考えを広げ、学びを深めていくことができるよう、授業を工夫すること。
- ・子ども達によりよく社会とかかわる力が身に付いたか、検証すること。

#### ○今後に向けて

子ども達がよりよく社会とかかわるために必要な力について整理し、授業づくりや検証へ生かしていくことで、「自分の思いや考えをもち、社会とかかわる児童生徒の育成」へとつながったか、確かめていきたい。

# 「つくってあそぼう ○○らんど」

小学部 生活単元学習

学習集団 小学部5・6年生6名（対象児童：小6Aさん）

## ○実践の概要

関わりの対象が限定的であったり、言葉が足りず伝え方が一方的になったりすることが多いという学習集団の実態から、クラスの友達と玩具をつくったり、つくった玩具で遊んだりする『○○らんど』をつくり、馴染みのある教育実習生を招待して一緒に遊ぶ学習活動を設定した。また、この活動の中で、人とのよりよい関わり方に気付くことができるような場面を設定した。

## ○実践のポイント

### 〈「願い」をもつための手立て〉

単元のテーマを「みんなできょうりょく、みんながたのしい『○○らんど』をつくってあそぼう」と設定し、『みんなできょうりょく』『たのしい』『はーとらんど』などキーワードとなるものをイラストと共に常時掲示し、毎時間授業の初めに確認するようにした。

### 〈「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫〉

- ・興味関心の幅を広げたり、玩具のつくり方や遊び方を真似したりする姿を出すために、一人一人が玩具をつくるブースをコの字型で配置し、児童が互いの様子を見ながら活動できるようにした。
- ・段ボールハウスの壁を立てる場面など、「どうしたらよいだろう」と考える場面を意図的に設定し、同じような玩具をつくったことがある友達などの解決策を知っている人に、「教えてください」や「お願いします」と伝えることができるようにした。
- ・思いがうまく伝わった際の関わり方を写真や吹き出しで壁面に掲示し、コミュニケーションボードとして紹介した。



〈コミュニケーションボード〉

## ○単元におけるAさんの様子

- ・第1次では、「あそんでみよう」を小テーマに、教師がつくった遊び場の中で好きな玩具を見つけて遊んだ。教師の誘いを受けて一緒に遊ぶ中で、円柱のウレタンブロックの上に乗ったり、一人で乗るのが難しいときは教師に依頼をしたりしてから、支えてもらって遊ぶ様子が見られた。また『○○らんど』の○○を考える場面では、自分から「はーと」と伝える姿が見られた。
- ・第2次では、「つくってあそぼう」を小テーマに、友達がつくった玩具で遊んだり、自分の玩具をつくったりした。友達がつくった段ボールハウスに教師と一緒に「入れて」と言って遊んだり、段ボールハウスを気に入ると自分でもつくりたいことを教師に伝えたりする姿が見られた。その際、友達のつくり方を参考にテープを貼って固定をしたり、教師に「教えてください」と依頼をしたりしながらつくりることができた。
- ・第3次では、「さそってあそぼう、もっとよくしよう」を小テーマに、実習生を招待して遊んだ。教師と一緒に、コミュニケーションボードを参考に「○○先生、お願いします」と実習生に要求を伝えることができた。繰り返す中で、困ったときに伝えるとよいことや伝え方が分かってくると、実習生だけでなく友達にも依頼をしたり、自分がつくったものを見せに行ったりする姿が見られた。



## 単元を通したAさんの姿や 願い・思い・考え

Aさんの本単元の目標：他者と一緒に遊ぶよさに気付き、自分から教師や実習生を遊びに誘ったり、場面に応じた言葉で自分の思いを伝えたりすることができる。

	支援	Aさんの姿	見取った <u>願い・思い・考え</u>
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一緒にやってみましょう」と手招きをし、ボールを転がすように提案する。</li> <li>同じ形のウレタンブロックをもう一つ足元に置く。</li> <li>友達が教師に「貸して」と伝えている場面を目の前で見せ、「貸してだね」とAさんに聞こえるように言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボール転がしのブースへ近付き、教師からボールを受け取って遊ぶ。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>2つのウレタンブロックの上に乗って、「〇〇先生(手を)貸してください」と教師に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やってみたいな(欲求)</li> <li>先生に誘われたからやってみようかな(判断)</li> <li>〇〇先生と一緒にやりたい</li> <li>ブロックに乗って遊ぶと楽しい(感想)</li> <li>〇〇先生に手を支えてほしいから、伝えてみよう(判断)</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「友達に入れてとお願いしてみますか」と提案する。</li> <li>Aさんと一緒に「入れて」と友達に伝える。</li> <li>「家をつくれますか」と問いかける。</li> <li>「何ですか」と問いかける。</li> <li>テープをAさんの前に提示し、「テープを使うのはどうですか」と提案する。</li> <li>「やってみますか」と伝え、テープを渡す。</li> <li>「貼っていいみたいですよ」と友達の言葉を改めて伝える。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達がつくった段ボールの家を見る。</li> <li>教師と一緒に友達に「入れて」と言う。</li> <li>「やる」と教師に伝える。</li> <li>段ボールを教師から受け取り、壁をつくり始めようとして教師を見る。</li> <li>「先生、教えてください」と言う。</li> <li>自分の家をつくる。</li> <li>友達がつくっている家の近くで様子を見る。</li> <li>友達の家にテープを貼ろうとする。</li> <li>友達の「いいよ」という返事を聞いて貼る。</li> <li>ガムテープを切って友達に渡す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になるな(興味)</li> <li>面白そう(期待感)</li> <li>「入れて」と言えばいいのだな(理解)</li> <li>段ボールの家をつくりたい</li> <li>やってみたい(欲求)</li> <li>一人だとできないかも(困惑感)</li> <li>先生なら教えてくれるかな(予想)</li> <li>先生に伝えればいいんだ(理解)</li> <li>友達は何をしているのかな(興味)</li> <li>テープを使えば壁が立てられそう(予想)</li> <li>先生も僕に渡してくれたな(想起)</li> <li>テープを渡せばいいんだな(理解)</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「△△先生(実習生)にお願いしてみましょう」と提案する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>両面テープを剥がそうとするが上手くいかず、教師の方を見て「〇〇先生、教えてください」と伝える。</li> <li>実習生の先生を見て、「△△先生、お願いします」と伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家に画用紙でつくった飾りをつけたいな(欲求)</li> <li>上手くできないから、先生にお願いしよう(判断)</li> <li>△△先生はこの先生だ(判断)</li> <li>「お願いします」と言えばよかったな(判断)</li> </ul>

# 『すてき』に かざろう

中学部 美術科【デザイン】 学習集団 中学部1・2・3年生7名 (対象生徒：中2Bさん)

## ○実践の概要

本学習集団は、材料の形や色から受ける印象を基に表現したいことを思い付くことや、材料を組み合わせることで空間を広く使いながら立体的に表現していくことに課題がある。本題材では、材料の形や色がもつよさや特徴に着目して、自分が気に入った材料を選び、配色や配置を工夫することをねらいに、カラーセロハンやクリアコップ、透明フィルムなどを並べたり、重ねたりして空間を飾る学習活動を行った。

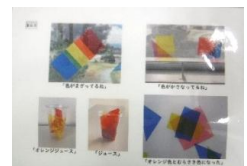
## ○実践のポイント

### 〈「願い」をもつための手立て〉

- ・題材のテーマを『すてき』にかざろうとし、つくったり鑑賞したりしていく中で「どこが好きですか」「どのように見るのが好きですか」と尋ねることで、『すてき』に着目できるようにした。
- ・教師や友達が飾ったものを鑑賞する時間を設けたり、友達と一緒に制作できる場所を用意したりした。

### 〈「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫〉

- ・材料を見たり触ったりする時間を設け、「重ねると色が変わりましたね」「黄色い丸が透けてこちら側からも見えますね」等と言葉でフィードバックすることで、材料の特徴に気付くことができるようにした。
- ・「そうだよね」「そっか」「なるほど」などと共感したり、「それで?」「それって～こと?」などの思考を繋ぐ言葉で問い返したりするなど、教師が合いの手を入れながら関わるようにした。
- ・レイアウトカードを提示し、つくりたい形やものを思い付くことができるようにした。



〈レイアウトカード〉

## ○題材におけるBさんの様子

- ・第1次では、「かさねて ならべて どうなる?」を小テーマに、廊下の壁面や 窓、天井などが飾り付けられた空間を鑑賞した後、気に入った場所で制作する活動を行った。教師が隣で生徒の表現を真似したり、友達の様子を紹介したりすることで、Bさんは材料の特徴に気付くようになり、カラーセロハンを目元にかざしたり、窓にクリアコップとカラーセロハンを並べて貼ったりする姿が見られた。
- ・第2次では、「えらんでつくって『すてき』にかざろう」を小テーマに、教室や廊下の中から好きな場所を選んで飾る活動を行った。Bさんは、友達が大きな箱型のパネルを飾る様子を見て、友達と一緒に大きな箱型のパネルを飾り付けるようになった。カラーセロハンを箱の覗き穴に色が変わるように貼ったり、パネルの反対側からの透け方を見て貼ったりする姿が見られた。第2次後半には、友達がクリアコップにカラーセロハンを入れて「ジュースおいしい」と言う姿を見て、レイアウトカードから「ジュース」を選び、カラーセロハンを重ねて色を変えながら「ぶどうジュース」や「メロンジュース」をつくった。
- ・第3次では、「みんなの『すてき』をみつけよう」を小テーマに、友達がつくった作品を鑑賞したり、自分がつくったものを友達に紹介したりした。Bさんは自分がつくった作品を「ジュース」と言い、友達に「どれがいいですか」と問い掛ける姿が見られた。



## 題材を通したBさんの姿や 願い・思い・考え

Bさんの本題材の目標：材料の組合せを試し、自分が感じたことと結び付けながら、色や形を工夫して表すことができる。

	支援	Bさんの姿	見取った <u>願い</u> ・ <u>思い</u> ・ <u>考え</u>
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が飾り付けた鑑賞スペース</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>「どこを飾りたいですか」と尋ねる。</li> <li>「△を逆さにして貼ったのですね」「次はどう貼りましょう」などとBさんの行動に対して言葉でフィードバックする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繋がったクリアコップの底面や側面を覗いている。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>窓を飾ることを選び、窓の上の方からクリアコップを等間隔に並べて貼っていく。</li> <li>材料置き場から大きなカラーセロハンを選んで貼った後、赤、青、黄のカラーセロハンを高さやずれないように並べて貼る。</li> <li>△▽と並ぶように配置して貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何が見えるかな（疑問）</li> <li>向こう側が透けて見えるのだな（理解）</li> <li>他に何をしたらよいのかな（不安）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>クリアコップとカラーセロハンで窓を飾りたい（欲求）</li> <li>どうやって貼っていいのかな（期待感）</li> <li>逆さに貼ると、バランスよく見えるかも（予想）</li> <li>下の方は△をたくさん貼ろう △は逆さまにもしてみよう（判断）</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コップでタワーをつくりませんか、大きな箱を飾ってみますか」と尋ねる。</li> <li>Bさんと別の覗き穴から箱の中を覗いたり、「何色に見えますか」と尋ねたりする。</li> <li>カラーセロハンを貼る様子を見て、「青の△の隣に□、次は？」と言葉を掛ける。</li> <li>指でなぞる様子を見て、「黄色い丸が透けて見えますね。何に見えますか。」と尋ねる。</li> <li>ジュースをつかった生徒に「カラーセロハンを入れて、それからどうなるんでしょう」と言葉を掛ける。</li> <li>Bさんにレイアウトカードを提示して、「何をしましょう」と尋ねる。</li> <li>「青と黄、赤と青で何味のジュースになりましたか」等、尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大きい箱」と答え、カラーセロハンを材料置き場から選ぶ。</li> <li>覗き穴を覗いて色の見え方を確かめながら青や赤のカラーセロハンを少しずつずらして貼る。</li> <li>箱の側面にカラーセロハンを規則正しく間隔を空けて貼る。</li> <li>手元にある材料を貼り終えた後、貼った黄色の○の輪郭を指でなぞる。</li> <li>「おつきさま」と教師に伝える。</li> <li>友達がクリアコップにカラーセロハンを入れてジュースのようにして飲む様子を見る。</li> <li>「ジュースつくる」と答える。</li> <li>クリアコップに赤、黄、青のカラーセロハンを色の組み合わせを変えながら重ねて入れていく。</li> <li>色合いをじっくり見て「メロンジュース」「ぶどうジュース」と答える。</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんながいて楽しそう（期待感）</li> <li>どこにカラーセロハンを貼ろうかな（期待感）</li> <li>覗き穴にカラーセロハンを貼ってみよう（判断）</li> <li>もっと箱にカラーセロハンを貼ってみたい（欲求）</li> <li><b>みんなと箱を飾ってみたい</b></li> <li>△はここ、□はここ（選択）</li> <li>並べてカラーセロハンを貼るときれいな（感想）</li> <li>黄色の○好きだな（感情）</li> <li>貼った反対側からも色が透けて見えるな（理解）</li> <li>黄色の○は「おつきさま」みたいだな（イメージ）</li> <li>何をにつくっているんだろう（疑問）</li> <li>ジュースがおいしそう（感想）</li> <li><b>いろんなジュースをつくりたい</b></li> <li>ジュースつくってみたい（欲求）</li> <li>青と黄のカラーセロハンを入れよう。赤だけでもつくろう（判断）</li> <li>何味だろう（疑問）</li> <li>色が混ざって見える 青と黄は緑に見えるからメロン、青と赤は紫だからぶどうだな（認識）</li> <li>僕はジュース屋さんなんだ（認識）</li> <li>友達がわかってくれて嬉しい（達成感）</li> <li>僕がつくったものをみんなが選んでくれて楽しいな（感想）</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>Bさんの作品を見た他の生徒の「ジュースおいしそう！」という発言から「Bさんがつくったものを教えてください」と尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作品を紹介した際、「ジュース屋さんだ」という友達の発言を聞いて、自信をもった表情をする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>僕はジュース屋さんなんだ（認識）</li> <li>友達がわかってくれて嬉しい（達成感）</li> <li>僕がつくったものをみんなが選んでくれて楽しいな（感想）</li> </ul>

# 「計画的にお金を使おう」

高等部 生活単元学習

学習集団 高等部1・2年生10名（対象生徒：高2Cさん）

## ○実践の概要

1日の中で予算を計画して使う経験はあるが、一定期間の生活の中で計画をして使う経験がないという実態から、卒業後の生活を見据え、計画的なお金の使い方を理解し、見通しを立ててやりくりをする力を身に付けることをねらいに、1か月間の生活や複数月の生活を疑似体験する「生活体験ゲーム」を行った。

## ○実践のポイント

### 〈「願い」をもつための手立て〉

- ・単元のテーマを「お金を計画的に使って幸せになろう」とし、購入したものや選んだ行動に対して「幸せポイント」を設定することで、お金の増減だけでなく自分の気持ちにも着目できるようにした。
- ・生徒が日常生活の中で興味関心をもっているもの（例：ギター）をゲーム内に取り入れた。

### 〈「願い」の実現に向けて、思いや考えを巡らせるための活動や支援の工夫〉

- ・「お金の使い方アドバイス」として、教師の失敗談や、活動を進めていく中で出てきた生徒のお金の使い方の工夫を紹介し、壁面に掲示した。
- ・壁面に、幸せポイントや購入したものの写真カードを掲示した。
- ・お金の使い方や〇円貯金するなどの1か月ごとの目標を設定する場面を設けた。一人1冊用意したお小遣い帳には、なぜそれを選んだのか、なぜそこで購入したのかなど、購入理由をメモできるようにした。
- ・他の生徒が工夫して使っている様子を活動の途中や最後に紹介した。





## ○単元におけるCさんの様子

- ・第1次では、「1万円で何が出来る？何が買える？」を小テーマに、買い物ブースで1万円を自由に使う体験をし、自分と友達の使い方を比較することで、自分自身のお金の使い方を振り返った。1万円の中で、チョコレートやお弁当を買ったりボウリング代を支払ったりする中で、1万円でいろいろなものが買えることに気付くことができた。また、月初めにお金を使いすぎた教師の失敗談を聞くと、不安を感じたり、お金の大切さを再認識したりする様子が見られた。
- ・第二次では、「計画的にお金を使おう」を小テーマに、6か月の「生活体験ゲーム」を行い、予算計画を立てたり、使い方を振り返って改善したりする学習をした。お金の使い方を工夫することができるように「1か月3,000円で過ごそう」などとお小遣い帳に1か月の目標を記入できるようにした。ギターを買うためにお金を貯めると決めると、できるだけ安い商品を選んだり、購入を控えたりする様子が見られるようになった。
- ・第三次では、「計画的にお金を使えるようになったか確かめよう」を小テーマに、第二次で行った「生活体験ゲーム」の1か月目のお金の使い方を振り返り、改善点を見付ける学習をした。「お金の使い方アドバイス」を基に振り返ることで、「買わなくてよかった」と購入を控えたり、「コンビニよりスーパーで買おう」と値段を比べて安い商品を購入したりする様子が見られた。



## 単元を通したCさんの姿や 願い・思い・考え

Cさんの本単元の目標：1万円の価値や予算の立て方を理解し、自分の欲しいものや必要なものを購入するための計画を立ててお金を使うことができる。

	支援	Cさんの姿	見取った <u>願い・思い・考え</u>
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の前で1万円札を1000円札10枚に両替をする。</li> <li>お金の使い方の教師の失敗談を紹介する。</li> <li>幸せポイントや購入したものの写真を掲示する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>チョコレートやお弁当を買ったり、ボウリング代を支払ったりしている。</li> <li>「ええー！」と言って驚いている。</li> <li>「風邪を引いた」や「お腹が空いた」などマスごとのイベントに対して、すべて買い物をしている。</li> </ul>	<p><b>買い物したい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何を買おうかな（期待・欲求・興味）</li> <li>1万円っていろいろ買えるんだな（認識）</li> <li>自分はお金で困りたくないな（感想）</li> <li>お金って大事だ（認識）</li> </ul> <p><b>計画的にお金を使いたい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物をどんどんしよう（期待・欲求）</li> <li>買い物をすれば、幸せポイントが減らないな（認識）</li> <li>1万円以内で1か月過ごせたけど、欲しいものは買えたかな（疑問）</li> </ul>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>お店の商品などを見る時間を設ける。</li> <li>「お金の使い方アドバイス」で友達や教師のお金の使い方を紹介する時間を設け、壁面に掲示する。</li> <li>お小遣い帳を用意する。</li> <li>「安い商品で代用する」や「購入を見送る」など、買い物の工夫を記載したカードを提示する。</li> <li>購入するか悩んでいる際には「どうしましたか」や購入した商品に対して「どうして買ったのですか」など理由を尋ねるような言葉を掛ける。</li> </ul>  <p>（お金の使い方アドバイス）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ギターが欲しいです」と教師に伝える。</li> <li>友達のお金の使い方の工夫を聞き、「いいねえ」と言う。</li> <li>「ギターが買えたらカッコいいな」と言う。</li> <li>「1万円を貯める」とお小遣い帳に書く。</li> <li>似ている商品ではコンビニよりスーパーに行き、安い方を選んで買い物をしている。</li> <li>「最近使いすぎだから、買うの我慢します」と言って、購入を控える。</li> <li>服に穴が開いてしまったマスに止まった時に、服やズボンを購入している。</li> <li>貯金でギターを購入する。</li> </ul>  	<p><b>ギターを買いたい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12000円のギターを買おう（判断）</li> </ul> <p>「値段を比べて買う」使い方をやってみたい（期待・欲求）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安い商品を選べば貯金できるのか（認識）</li> <li>次の月にギターを買いたい（欲求）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>1万円を貯められるように、1か月3000円で過ごそう（判断）</li> <li>お金を貯めたいな（欲求）</li> <li>安い商品を選ぶと、お金を使わなくて済むな（認識・理解）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金を貯めるためには、我慢も必要だな（認識・理解）</li> <li>服やズボンが壊れちゃったどうしよう（困惑感）</li> <li>1万円を残せなくなってしまう（困惑感）</li> </ul> <p>どうしても買わないといけないものだから、お金を使い過ぎちゃうけど買おう（判断）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>でもできるだけ安いものにしよう（判断）</li> <li>買えた！やったー！（達成感）</li> <li>貯金すると自分の好きなものが買えるんだ（理解）</li> <li>また貯金して〇〇を買いたいな（欲求・期待感）</li> </ul> <p>こんなに使っていたのか（認識）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金を計画的に使うには、安い商品を選んだり、我慢したりすることが大事だ（認識・理解）</li> </ul>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの月ごとのやりくりの仕方や、「お金の使い方アドバイス」を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「これは使い過ぎだ」と言う。</li> <li>1か月目の買い物を見直し、購入をやめたり、違うお店で購入（コンビニ→スーパー）したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こんなに使っていたのか（認識）</li> <li>お金を計画的に使うには、安い商品を選んだり、我慢したりすることが大事だ（認識・理解）</li> </ul>